

国が推進「フレキシブル支援センター」 きょう町内に開設



介護、子育て支援 一体的に

サービス拡充へ

【当別】国が進める「フレキシブル支援センター」が1日、町内に開設される。景気悪化で離職を余儀なくされた非正規労働者らを雇用。地域の高齢者介護や児童保育などを一体的に行うとともに、職業体験や研修、勉強会などを通じて資格を取得してもらい、再就職につなげてもらうのが狙いだ。(荻野貴生)

町の委託を受け、NPO法人当別町青少年共生型地域福祉ターミナル(町内弥生109活動センター)と、障害者の就労24が運営する。ボランティア活動の拠点の町拠点の一つとなる町共生型地域福祉ターミナル

者に対する介護予防事業などのサービスを拡充する。1日付で20代と60代の計4人を採用。2011年度末まで働きながら、ゆうゆう24が企画し、一般向けにも受講生を募集している。「地域共生型パーソナルアシスタント」養成講座を受講してもらう。介護される人の気持ちや、障害者・認知症患者とのコミュニケーション、介護法などを学ぶ10回のコースで、ヘルパーなどの福祉関連の資格取得に役立つ。ゆうゆう24の大原裕介所長は「4人を採用することで、従来のサービスを拡充することができる。訪問介護の回数を増やしたり、地域住民が自由に交流できる場もつくりたい。預かりなどの新しいサービスも検討したい」と話している。フレキシブル支援センターは既存の福祉制度の枠を超えた拠点として、釧路市に07年に開設されたコミュニティハウスがモデル。ゆうゆう24は江別市でも1日から同様の事業を始める。